

第6投目：たとえ1枚でも小さくともクロはクロ



2月の3日間大会も残念な結果に終わり、クロ釣りに対する気合も抜けかかっていたある休日の前夜、『数人の釣り仲間と与路島方面に行きますが一緒にどうですか?』と我がクラブのY副会長から誘いがありました。天気も割合良く、特に予定も入ってなかったのですぐに釣行決定。それからせっせと撒き餌作りに精を出したのです。

釣行当日は波が2mから1.5mに落ちる予報、朝方は多少北からの波が残っていましたが、一日穏やかな釣りができそうです。降りた磯は、与路島の東側にある名も無い地磯のようなところ。今シーズンは誰も降りていないだろうという予想と一昔前は50cmオーバーのクロが数多く釣れていたという情報もあり、もしかしたら…を期待しながら釣り開始です。

仕掛けをセットし、撒き餌をしながら魚が出てくるのを待っているとすぐに海は魚でいっぱい。イスズミにアイゴにスズメダイにサンノジにと、まるで水族館の南の海コーナーといった感じです。いろんな魚を釣りながらクロが出てくるという北への下げ流れを待っていたのですが、結局最後まで流れは逆。この磯で特筆するとすれば、得体の知れない底物のような魚に一度も止まることなく真下突っ込まれ、仕掛け全てを吹飛ばされたのが一回あった事ぐらいでしょうか。

正午頃、別の磯に乗っていたY会長から『瀬替わりができるという事ですが、別の磯に移ります?』との嬉しいが!『はいっ』と元気良く即答しました(笑)

移った磯はハンマ島周辺の小さな岩、午後の上げ潮に期待して渡礁です。乗ってすぐは潮止まり、小さなカワハギが3匹見えるぐらいでした。竿を置き、岩に座ってのんびりと撒き餌を打ちながら潮を観察、少しして沖の上げ潮が若干動いてきたかな?と感じた次の瞬間、視野の右端に尻尾の白い魚が磯際で反転したのが映りました!思わず一人でガッツポーズです(笑)。潮の動き出しで変化した海、それまで見えなかった魚達がどんどん増えてきます。見えたクロは50cmに満たないサイズでしたが、一度でも見えれば気合も入ります。



それから10分間、クロの姿がはっきりとは確認できない時間が続きましたが、狙いを沖の潮の壁に変えた1投目、チョウチョウオが半分かじったオキアミをそのまま流しこんでいくと、深めの棚で白い尻尾がヒラリと反転!ウキがきれいに入り、46cmほどのサイズでしたがなんとかクロをゲットできたのです。

他の磯では50cmオーバーのバラシがあったり、計5枚のクロを釣ったコンビがいたりと景気の良い話ばかりでしたが、一日苦労しながら最後にやっと釣った1枚、クーラーの中にクロを入れずに帰る時の気持ちと比べると雲泥の差、小さくても嬉しい1枚を感じた釣行でした。